

伊勢崎市立第三中学校

学校通信

第5号
令和6年7月19日

雄飛 

充実の1学期 「当たり前」がレベルアップ！

4月8日に始まった1学期も本日終業式を迎えました。皆さんはこの1学期を「共に楽しむ」ことができたでしょうか。学校全体としては、毎日の授業や部活動に加え、修学旅行、東京体験学習、高原学校などの学校行事も大成功を収め、とても大きな成果をあげることができたと感じています。それでは終業式にあたり、この1学期に「さすが！」と感心した三中生の姿を伝えます。

①授業に取り組む姿勢が真剣であること

先生からやらされている受け身の授業態度ではなく、自分から学ぼうとする姿が各学年、各学級で見られました。学校生活の土台である1時間1時間の授業への取組が素晴らしいこと、ここがブれないのが三中生の強みであり、三中の最大のよさです。

②気持ちのよい挨拶ができること

心を込めた挨拶ができる生徒が確実に増えていると感じました。特に3年生の挨拶は丁寧で爽やかで、こちらの心が温かくなります。さすが三中の最上級生です。少し話はずれますが、3年生は毎日の給食の残量がとても少なく、その点についてもいつも感心しています。

③各部の活動が活気に溢れていること

その要因は3年生のリーダーシップであることはもちろん、それに加え2年生の部活への取組が立派であったことです。3年生を献身的にバックアップするだけでなく、1年生を温かく指導してくれました。2年生からは中堅学年としての自覚が伝わってきました。

④校歌の歌声が素晴らしいこと

三中生が三中の校歌を心を込めて歌うことには大きな価値があります。ご存じの通り、歌詞の中に三中生への願いや学校教育目標が登場するからです。1年生もこの1学期の間に95%以上の生徒が学校教育目標を暗唱することができました。これもとても素晴らしい結果です。

以上4点ですが、どれも中学生としては「当たり前」のことかもしれません。ただ、皆さんの「当たり前」のレベルは確実に向上しています。新年度のスタートにあたり「当たり前の質を高めよう！」と話しましたが、まさにそれを実現させつつある1学期の生活態度だったと思います。

明日から夏休みが始まりますが、今年の夏休みは昨年より5日長く、44日間となります。夏休みは自由になる時間が多く、勉強や部活動だけでなく、地域の活動に参加したり、自分の好きなことに時間をかけたりすることができ、自分自身を高める絶好の機会となります。皆さんには、しっかりと目標を定め、その実現に向けて挑戦する有意義な夏休みにしてほしいと思います。そして、交通事故や熱中症等のない事故ゼロの夏休みを送り、三中生601人全員で、元気に2学期を迎えましょう。



【郡市総体4本の優勝旗】
(奥からバスケ男子・バレー女子・野球・バドミントン男子)